

見解表明 明るい民主和泉市政をつくる会 市長選挙 候補者擁立ならず

2017年和泉市長選挙にのぞむ「つくる会」としての対応について

「明るい民主和泉市政をつくる会」（以下、略称「つくる会」）は、来月4日に予定されている和泉市長選挙への対応を協議するため幹事会を開催し、議論を進めてきました。

議論においては、現職の辻市長の2期8年間にわたる市政運営に対する評価が中心となり、「つくる会」として以下のような総括を行いました。

1. 2期8年にわたる辻市政の中で評価できる点としては、妊婦検診公費負担12万円への引き上げや乳がん検診の自己負担無料化、新婚世帯への家賃補助など「出産・子育て支援体制の充実」「健康・福祉施策の充実」、留守家庭児童会の午後7時までの延長や中学校教室へのエアコン設置の予算化などの「教育・生涯学習環境の充実」などがあげられます。

2. 辻市政では基本プランとして「和泉再生プラン」「和泉躍進プラン」が策定され、実行に移されてきました。これらのプランは、厳しい市財政状況を全面に押し出し、歳出の抑制をあらゆる場面で打ち出すことが中心とされ、ゴミの有料化や各種祝い金・手数料の見直しなど、市民負担が増える結果となり、職員に対しては、市民に負担をお願いしていることを理由に、人件費の抑制や職員採用の抑制が押しつけられました。こうした歳出抑制の最大の柱として進められた施策が、市立病院や公立幼稚園・保育所、その他公立の施設の統廃合、民営化（計画）、小中学校給食調理部門の民間委託の拡大です。

しかも、その手法はあまりにも拙速であり、市民や職員への十分な説明や調整が行われないまま進められていることが特徴です。市立病院の指定管理者制度導入、公立幼稚園・保育園の統廃合と、認定こども園や拠点園への集約化計画にあたっては一部の有識者等による検討委員会での答申を絶対化し、パブリックコメントなどで出された不安や批判の意見に対しても十分なやりとりが行われないまま、進められてきたことなどは、自ら作った自治基本条例に照らしても問題ありと指摘せざるを得ません。

3. このように、2期8年にわたる辻市政について私たち「つくる会」としては、評価する部分は評価したとしても、60年を超える和泉市政の歴史の中で守り、発展させてきた公的施設や公的責任の放棄の流れが著しく、かつ市民への説明が不十分なまま押し進められてきたことに鑑みて、全体として評価できず、その市政の転換を図るべきものと判断するものです。

4. こうした判断にたって、「つくる会」では2期8年間の辻市政からの転換を現実のものとする立場から、「つくる会」としての独自候補ではなく、幅広い市民共同が図れる候補者の擁立を模索してまいりました。しかしながら、個々の事情や時間的な問題もあいまって、現時点で幅広い市民共同の候補者の擁立を行うには至らず、残念ながら今回の市長選挙を「つくる会」として、支持及び推薦した候補者を擁立し、たたかうことについては断念せざるを得ないとの判断に至りました。

5. 今日的な情勢のもとで、「つくる会」として幅広い市民共同の候補者を擁立できず、現時点で市民に選択肢を提供できないことは、私たちの組織と運動の両面での力不足を痛感するものです。本来、基礎自治体である和泉市は、国や府の悪政からの防波堤となつて、市民生活を守るためにこそ存在すべきです。

市長選挙結果のいかんに関わらず、私たち「つくる会」は、和泉市がこうした基礎自治体として担うべき本来の役割を果たすよう求め、引き続き構成団体の仲間とともに様々な形で市政への働きかけを行っていく決意です。

以上

引き続き組織と運動の強化を

共謀罪 世論の力で 必ず廃案に！